

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県小・中学校学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立（東川登）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	67.7	74.0	65.9	68
	(1.1)	(1.3)	(1.0)	(1.3)
R8 正答率の全国比		1.2		1.2

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語では、比喻や反復などの表現の工夫に気付くなどの「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高かった。一方、「情報の扱い方に関する事項」の正答率が低かった。
- ・算数では、「数と計算」の領域に関する「小数の十進位取り記数法の仕組み」や「数直線上の分数を捉える」問題の正答率が高かった。一方、「変化と関係」の二つの広場の混み具合を求める式の意味について正しいものを選ぶ問題の正答率が低かった。
- ・意識調査では、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」に 9 名（10 名中）の児童が「よくできている」と回答していた。一方、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に 1 名の児童が「あまりできない」と回答していた。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「マイアセス」で自分に合った問題に取り組ませることができるよう、個人の QR コードをラミネートしたものを各自でもたせ、取り組ませるようにした。
- ・学力テストの結果を基に、各学年の実態に応じた基礎・基本問題や活用問題を用意したり、3 年生以上は、辞書引きタイムを設けたりして、「チャレンジタイム」とし、全校一斉に課題に取り組む時間を設定した。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習で、要約や組み立てを考えて文章を書くなどの問題に取り組ませる。
- ・家庭学習で、自分の考えを言葉で説明するなどの算数の活用問題に取り組ませる。
- ・自学ノートは、取り組む期間を決めて、自分で計画を立てて学習を進めるようにする。